

留萌 ゆめみらい物語

#8 原田 欣典さん



ルルモツペ河川愛護の会
会長

はらだ よしのり
原田 欣典 さん



▲サクラマスの稚魚放流に取り組む潮静小学校の児童ら

河川愛護精神の継承

「留萌川を大切にしたい」

甚大な被害を及ぼした「昭和63年の大水害」から30年の月日が流れました。

昭和63年、留萌地方は8月25日夜から局地的な豪雨に見舞われ、留萌川が氾濫して下流域の数箇所で決壊が起こりました。堤防からあふれた水が川沿いの住宅街に押し寄せ、市内約3500世帯が浸水しました。

その後、国の河川激甚災害対策特別緊急事業が同年11月に始まり、留萌川の河道掘削や護岸整備などの改修工事が進められ、平成4年10月に現在の留萌川に生まれ変わりました。

ルルモツペ河川愛護の会は、

留萌川の改修工事に携わった市内の民間企業が集まり、平成元年6月に発足しました。会長の原田欣典さんは「私たちは発足当時から今日に至るまで、一級河川『留萌川』を管理する留萌開発建設部の協力を得ながら、環境保全や親水教育の普及などに取り組んでいます」と語ってくれました。

同会では、留萌川の環境保全などを図るため、関係機関と連携しながら、河川清掃や河川点検を年数回行っているほか、市内小学校の児童と共にサクラマスの稚魚放流などの活動が続けています。

「現在までに留萌川へ放流してきたサクラマスの稚魚は、合わせて50万匹となりました。ひとえに参加してくれた児童たちのおかげだと感謝しています」と振り返ります。

「当会は来年で創立30周年となります。それに合わせ、留萌川の歴史などを盛り込んだ記念誌を市内小学校や関係機関に配布したいと考えています。これからも、たくさんの方に『留萌川を大切にしたい』という思いを継承していきたいですね」と話してくれました。

ルルモツペ河川愛護の会の活動などについては、左記へお問い合わせください。

問 ルルモツペ河川愛護の会
原田欣典会長（興北建設株式会社）
42-00668